

# ライフケアガーデン熱川

看護課 佐藤麻里子・山下清子

**功 績** ご家族の希望とご入居者の状態に合わせた看護・介護を実践するにあたり、佐藤・山下の2名の看護師が中心となり試行錯誤しながらも積極的かつ親身な対応を行いチームをまとめ、更にはご本人の負担軽減につながった功績。

**推 薦 者** 梅原春美

**推 薦 理 由** これまではチャレンジすることなく諦めていたであろう案件において、今年度目標である3本の柱に自身がどう貢献していくか また、看護師としての立場としてご本人の回復・ご家族の希望に応えるべく毎日の忙しい業務の中で個別に1日2回のリハビリを実施しご本人の負担軽減に繋げるなど今後のLCG熱川の新たな受け入れについて自信と実績 チーム力強化に中心となった佐藤・山下2名の看護師を今回理事長賞候補に推薦いたします。

## 内 容

ご入居者は普段から開口して笑う方でしたが数ヶ月前より突然、顎が外れるようになりました。そこで私たち看護課で相談し美容用のベルトを使用してみました。毎月1回のペースが2～3回と増えるようになりその都度、受診して整復していました。また、今年度に入り、誤嚥性肺炎で入院となり、入院中には毎日のように外れ、多い日には1日に2～3回と外れやすく、同時に入りにくい状況も都度発生するようになりました。当初、医師からは頻繁に外れやすく、その都度医師による整復が必要となり当ホームへの戻りは厳しいのではないかとのことでしたが、ご家族からLCG熱川への希望もあり医師からは専門医の受診とNSが整復できるようにすることが退院の条件となり直接指導いただきました。

しかし、看護課の中では不安の声が上るなど受け入れについて何度も確認が入りましたが まずは、自分たちで出来ること、ご本人への負担の軽減には何が出来るか佐藤・山下の2名の看護師が中心となりご家族の希望やもう一度ご利用者の笑顔を取り戻すべくチャレンジすることとなりました。初めは戸惑いからなかなかうまくいかないこともあり負担をかけてしまうこともありましたが、まずは・口腔外科で勧めているベルトの使用・理学療法士による週2回の四肢運動・看護師による1日2回の全身の揺れ、上肢下肢の運動として①防護性収縮(痛み) ②リラクゼーション(緊張を解きほぐす) ③姿勢(リスク軽減) にポイントを置き何度も看護課で話し合いを繰り返し行いました。結果、現在では外れる回数も10月では4回と大きく減少し、表情もよく時折笑顔も見られるようになり、食事も召し上がられております。

今回、これまでは医療案件として諦めていたかもしれない案件ではありますが、佐藤・山下2名の看護師が中心となりご家族の希望をかなえるべく民間の強みである『チャレンジ』とまた、『愛情を持って親身な対応』の実践。多職種を巻き込んだこれからのOurTeamのきっかけの一部であり2名の看護師としての使命感を垣間見ることができた事例となります。